

菌学会会長就任に当たって

奥田 徹（日本菌学会会長）



本年3月の東日本大震災とそれに続く未曾有の災害で、亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された方々には、改めて心からお見舞い申し上げます。

私はこの度伝統ある日本菌学会の会長に選出されました。これまでの歴代会長のご功績

と学会の名前を汚さぬように努力する所存です。会長就任にあたり、大変微力ではありますが以下のような方針で、関係理事・幹事の皆様と協力して学会のために尽くしたいと考えております。

学会の守備範囲と会員

これまでも今後も、菌類分類学は学会の根本をなす学問です。しかし、これを幅広くご理解戴くためには、学会の守備範囲を広げることが必須と考えます。

菌類はわれわれの日常生活において重要な生物で、食品、発酵食品、健康食品、医薬品・農薬、化学品、化粧品、酵素、環境分野などに利用される一方、農業、医療や生活環境の分野では、制御すべき生物として扱われることもあるため、善悪両面での応用研究の発展が不可欠です。また近年ゲノム科学に代表される、生命の根幹に関わる学問が盛んになってきました。そこで、日本菌学会では、これまでの基礎学問だけではなく、応用分野や産業上重要な分野、OMICSなどの新しい分野も、学会で取り扱えるようにしていきたいと思っております。

また、1998年日本菌学会第42回大会における、Roy Watling博士の特別講演「菌学におけるアマチュアの役割～彼らがいなくて我々に何ができるというのか」以来、わが国におけるアマチュアの活動と日本菌学会へのコミットメントを知らぬ人はありません。もはやアマチュアが日本菌学会のお客さまである時代ではなく、今や学会の中心的存在です。従って、それにふさわしい運営体制を整えたいと思っております。

産業構造の変化、少子化、その他様々な理由で、菌学

に携わる若い人が少なくなっていますが、今後の菌学並びにその周辺の学問の興隆のためにも、子供から20代の若い方々に興味を持って頂くような配慮をしていきたいと考えております。

国際的競争力のある学会誌

Mycoscience は、これまでの関係者の努力により国際誌としての地位が築き上げられました。Web of Science に収録され、間もなくインパクトファクターが付与されることになりました。今後は、Mycoscience の国際的レベル向上と、より広範囲の分野にわたる論文掲載を実現する体制を整え、国内外において魅力のある学会誌としていきたいと考えております。

集会と日本菌学会会報

広範囲の分野の方々および若い世代にも興味を持って頂くために、これまでの運営体制でも、多くの国内集会や合同シンポジウムが企画実行されてきました。これらの継続性を保ちながら、さまざまな新企画のシンポジウム、講習会、ワークショップを日本各地で開催したいと思っております。そのための担当幹事を多数お願いいたしました。これらの学術集会の成果はもとより、新しい分野の記事、解説を日本菌学会会報に掲載していきたいと思っております。

国際関係

本年は、8月に韓国仁川にてアジア菌学会が、9月には札幌で国際微生物学協会連合2011会議(IUMS2011)が開催され、それに引き続き、日本菌学会第55回大会と観察会が開かれます。したがって、これらは会員の皆様が、海外の菌学者と連携を深め、情報を共有する絶好の機会です。さらに、今年はメルボルンで国際植物学会が開催され、国際植物命名規約の検討の年でもあります。また、海外では生物のデータベースが着々と構築・整備されつつあります。このような動向にも、学会として注視していきたいと考えております。

素早い情報伝達と小回りのきく運営体制

理事の間、担当理事と担当幹事間の迅速な情報伝達と意思疎通を、これまで以上に図るための体制とシステム

を整えます。特に上記のような様々な企画をスムーズに立案実行するために、集会担当、日本菌学会会報担当、広報・普及担当者間の密な連携が必要になります。これからも運営の透明性をめざし、様々な方法を駆使した会員への素早い情報伝達に務めたいと思います。

そのためにも、ウェブサイトとニュースレターの連携と充実が必要と考えており、その体制を整えます。とくに学会のウェブサイトは、公的プロバイダーの都合で移設しなければなりません。そのために、利用される皆様に不都合・不具合が起これぬよう対応いたします。

庶務と会計

上記の様々なニーズに対応し、スムーズに学会を運営するための庶務の体制を整えます。また、資金面でも困難な状況が続きます。少ない予算で出来るだけの効果が生まれるよう努力をしたいと思います。そのためにも、一朝一夕には不可能ですが、将来日本菌学会を法人化する場合、それに対応できるような、会計システムの変革をめざしたいと思います。

震災復興をめざして

日本菌学会会報第52巻第1号の巻頭に掲載された「東日本大震災お見舞い」でも申し述べましたが、日本菌学会として何かお役に立つことが出来ないかを検討中です。特に日本菌学会員や東北支部、関東支部の会員で被災された方々が望んでおられるご援助をしたいと考えております。たとえば、被災地の自然復興への日本菌学会らしい手助け、学会主催のシンポジウムなどを通じたご援助、被災により失われた学会誌の提供、学会主催のイベントへの被災会員のご招待などです。

上記いずれの内容も、会員の皆様のご支持がなければ意味がありません。様々な機会を通じて必要に応じ、積極的にご意見を賜りたいと存じます。



日本菌学会第55回大会で招待講演を行ったメディナ基金（スペイン）のジェラルド・ビルズ（Gerald Bills）博士夫妻と東京・神楽坂のすし屋にて、90才現役のおかみと。



2010年8月、国際菌学会が開催されたエジンバラの町並み、ハリー・ポッターが出てきそうな夜に。